

茨木市立 豊川中学校 茨木っ子グローイングアップ計画

平成30年10月作成

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な生活習慣の定着を進めていくとともに、様々な生活体験を通して心情豊かに、安心して過ごせる集団をつくり、遊ぶこと、体を動かすことが楽しいと思える子どもを育てる。 ・校区全体で、つながりを持って取組を展開し、一人も見捨てず、集団づくりと授業づくりの連携のなかで、全ての子どもたちが、違いを認め合い育ち合う集団をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●保、幼、小、中、高、大地域、連携の情報共有発信 ・小小交流を進める。(6年同士の交流)(児童会交流会) ・共通実践を模索する。(同和教育や多文化共生教育) ・保幼小での段差解消に努め、職員同士が学び合う。(相互参観)小プールの解放、給食交流 ・いきいきスクールを活用し、中学校の教員が小学校へ来校し、授業などを行う。 ・合同授業研での柱を再確認し、授業づくりを共に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●保、幼、小、中、高、大地域連携の具体的実践の定着化 ・小小交流会において各校の実践を共通化させていく。共通実践の具体化を進める。 ・委員会や行事における交流を増やし、小小の子どもとの出会いから学びを仕組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ●校区全体での連携推進 ・高校卒業時点を視野に入れ、豊かな進路選択ができるような、学力・生活習慣の定着。 ・成果と課題の分析。
確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・聴きあい学びあう子どもを育てる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 3校合同授業研の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・6月(豊川中)10月(豊川小)11月(郡山小)2月(豊川中)7月(ビデオ研) ②授業づくり研修を、人権教育・支援教育・情報教育などと連携し展開する。ICT活用の研修も含む。 ③確認テストから学力データを経年で蓄積し、学年の特徴や学力を総合的に分析 ④中高連携を密に。キャリア教育の充実。(追指導) ⑤授業アンケート実施。子どもの授業内容の定着度合いや、授業づくりの重点課題を分析。また、全国学力・学習状況調査の結果分析もふまえて、子どもに必要な学力を授業でどう付けていくかを考える。 ⑥ユニバーサルデザインを取り入れた、授業の展開。生徒一人ひとりのつまずきは多種多様であるが、一人残らず授業に参加させ学びを保障する取組みを展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①3校合同授業研究集会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・年に5回、講師を招聘し実施する。 ・6月・1月豊川中学校 ・8月郡山小学校・豊川小学校の授業(録画) ・10月豊川小学校 ・11月郡山小学校 ②授業づくり研修を、人権教育・支援教育・情報教育などと連携し展開する。ICT活用に特化した研修も含む。 ③確認テストから学力データを経年で蓄積し、学年の特徴や学力を総合的に分析 ④中高連携を密に。キャリア教育の充実。 ⑤生徒による授業アンケートを実施し、定着度合、授業づくりの課題を分析する。また、全国学力・学習状況調査の結果も利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修の継続および改善を模索するとともに、生徒による授業アンケート、生活アンケート、全国学力・学習状況調査、スポーツテスト、校内確認テスト等を利用して、成果と課題を分析する。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">豊かな人間性を育む</p>	<p>・一人ひとりの人権が尊重される社会の実現をめざして、考え、行動できる力を育てる。</p>	<p>①生活アンケート（年1回）・社会性測定用尺度（年3回）の実施。子どもの自己肯定感や自己有用感に関するデータを蓄積し、分析する。</p> <p>②体験型学習 校外学習や職業体験学習などの体験型学習を通して、仲間を思いやり協力する力や社会を構成する一員としての自覚を育てる。</p> <p>② 人権教育の展開 多文化共生学習や同和教育などさまざまな人権課題についての学習を深める。小中で連携し、系統だった学習が展開できるようにする。</p> <p>④道徳授業の推進 道徳委員会を中心に、指導案の練り上げを行う。</p> <p>⑤いじめ・不登校委員会の活動 SC や生徒サポーター等とも連携して、子どもの相談活動の充実を図る。</p>	<p>①～⑤を継続して行う。</p> <p>⑥成果と課題を分析し、次年度に引き継ぐ。</p>	<p>①～⑤を継続して行う。</p> <p>⑥ 成果と課題を分析する。</p> <p>⑦ 次年度に活かせるよう、取り組んだ内容については授業案等の成果物として残す。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">健康・体力の増進</p>	<p>・基本的な生活習慣の確立 ・生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成</p>	<p>①4月新体力テストの実施 過去データと比較できるように、業者へデータ分析を依頼する。</p> <p>②授業づくり 体を動かすことを意欲的に取り組めるように、授業の内容・方法を工夫する。研修にも参加し授業力向上に努める</p> <p>③具体的な目標設定 目標や到達点を文章化することにより、継続的に取り組む体制を組織的につくる。</p> <p>④生活アンケートの実施 3食きちんと食べているかなど、食事・運動・休養が正しく行われているか検証、適宜面談等をおこなう</p> <p>⑤部活動の活性化 生徒数減少にともない部活数を増やせないが、部活の活性化につとめる</p>	<p>・成果と課題の分析 課題は次年度へ。</p>	<p>・成果と課題の分析</p>
<p>支援教育の充実</p>				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

<p>国語A (領域ごと)</p> <p>①話すこと・聞くこと 課題が残る結果であった</p> <p>②書くこと 課題が残る結果であった</p> <p>③読むこと 課題が残る結果であった</p> <p>④言語事項 課題が残る結果であった</p> <p>(問題形式)</p> <p>①選択式 課題が残る結果であった</p> <p>②短答式 課題が残る結果であった</p> <p>(無解答率) 概ね良好な結果であった。</p> <p>(その他)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学校の特徴的なことについて記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もともと正答率の高かった設問 8二1 ・もともと正答率の低かった設問 8四2 ・もともと無解答率の高かった設問 8一3 ・もともと無解答率の低かった設問 32問中、15問が0 </div>	<p>国語B (領域ごと)</p> <p>①話すこと・聞くこと 課題が残る結果であった</p> <p>②書くこと 課題が残る結果であった</p> <p>③読むこと 課題が残る結果であった</p> <p>④言語事項 課題が残る結果であった</p> <p>(問題形式)</p> <p>①選択式 課題が残る結果であった</p> <p>②記述式 やや課題が残る結果であった</p> <p>(無解答率) 概ね良好な結果であった。</p> <p>(その他)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学校の特徴的なことについて記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もともと正答率の高かった設問 2二 ・もともと正答率の低かった設問 1三 ・もともと無解答率の高かった設問 2二 ・もともと無解答率の低かった設問 1三 </div>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

分析

(正答率の全国比が低いものを取りあげた)

A問題 8四2、8五

- ・問題文に条件指定が非常に多かったため、条件を満たせない生徒が多かった。
- ・各教科が考える時間や自身の考えを他者と交流する時間を取り入れているが、語句の意味に対する理解が弱いこともあり、文章が長くなったり、解答条件が複数になったりすると、注意をはらいきれない。
- ・楷書と行書という語句の意味が理解できていない者が多い。例年の傾向でもある

B問題 1三、2三、3二

- ・設問の文章量が多くなると、理解できない。
- ・文章の大意、時系列等を理解するのが苦手であるため、設問の前後から「雰囲気」で解答する

数学A

(領域ごと)

- ①数と式
課題が残る結果であった
- ②図形
課題が残る結果であった
- ③関数
課題が残る結果であった
- ④資料の活用
やや課題が残る結果であった

(問題形式)

- ①選択式
課題が残る結果であった
- ②短答式
課題が残る結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

学校の特徴的なことについて記入

- ・もともと正答率の高かった設問 1(1)
- ・もともと正答率の低かった設問 2(1)
- ・もともと無解答率の高かった設問 2(4)
- ・もともと無解答率の低かった設問 36問中12問が0

数学B

(領域ごと)

- ①数と式
課題が残る結果であった
- ②図形
課題が残る結果であった
- ③関数
課題が残る結果であった
- ④資料の活用
やや課題が残る結果であった

(問題形式)

- ①選択式
課題が残る結果であった
- ②短答式
課題が残る結果であった。
- ③記述式
課題が残る結果であった

(無解答率)

やや課題が残る結果であった

(その他)

学校の特徴的なことについて記入

- ・もともと正答率の高かった設問 2(1)
- ・もともと正答率の低かった設問 3(3)
- ・もともと無解答率の高かった設問 3(3)
- ・もともと無解答率の低かった設問 14問中、2問が0

分析

(正答率の全国比が低いものを取りあげた)

A問題

2(1)、1(2)、15(1)

- ・文章問題が苦手かつ式をつくる問題のため、単純に数字をあてはめて答えを導くなどもできなかった。
- ・不等式を利用する場合、左辺と右辺の関係や加減のどちらを利用するのが難しい。
- ・絶対値、相対度数という語句の意味が定着していない(各単元では反復利用するためできているが、時間の経過、別の単元の知識も必要な場合はむずかしい)。
- ・習熟度、IT、入りこみなどで、ていねいな対応を継続していく必要がある。
- ・放課後学習会を活用する。

B問題

3(3)、5(2)、(2)2

- ・設問が長く、初見に感じる間だったため、手がつけられなかった。
- ・母数が少ない。

○●理科●○

(分野ごと)

- | | |
|--------|-------------|
| ①物理的領域 | 課題が残る結果であった |
| ②化学的領域 | 課題が残る結果であった |
| ③生物的領域 | 課題が残る結果であった |
| ④地学的領域 | 課題が残る結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 課題が残る結果であった |
| ②短答式 | 課題が残る結果であった |
| ③記述式 | 課題が残る結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

学校の特徴的なことについて記入

- | | |
|--------------------|--------------|
| ・もっとも正答率の高かった設問 | 7(3) |
| ・もっとも正答率の低かった設問 | 9(2) |
| ・もっとも無解答率の高かった設問 | 8(3) |
| ・もっとも無解答率の低かった設問など | 27問中15問で1.5% |

分析

(正答率の全国比が低いものを取りあげた)

9(2)、2(4)、5(1)

- ・茨木市全体として苦手な設問であった。自分で考え出す必要のある問題に課題がある。
- ・本校は理科において、実験および観察を非常にていねいかつ頻繁に実施している。生徒の関心を引き出すのに寄与しており継続したい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

H21年からほぼ横ばいの傾向、H24年度以降は平均正答率がずっと上昇していたが、今年度は下降した。すべての科目において正答率は全国値と比較して課題の残る結果となった。無回答率についてはおおむね良好な結果であった。背景として、授業規律はおおむね確立しており、授業に対して意欲的に取り組めるが、学習したことの定着が弱い傾向がある。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

学力高位層は H24年より増加傾向が続き、H28、29年に最高値となったが、今年度は減少した。学力低位層についてはH21年以降減少してきていたが、H28年から増加の傾向に転じた。今年度は上位層が少なく、下位層が多いという傾向が強く表れた。エンパワーメント層は増加したが、H19～H25年の厳しい時期と比較すると少なく、全体的な学力の底上げがはかられていることがわかる。

背景として、小中の一貫した授業づくりの取組みの成果は表れていると考えている。

学力向上に関する取組み

①授業づくり研修

<3校合同>

豊川中学校区での連携。指導案づくりから小中で連携し、3校合同で授業づくりを行った。

<校内研修>

部会内で取組み(研修内容)の確認、学年方針を確認、計画、実施を徹底する。また、取組み内容の反省を毎回行い、次の計画を進める。四人班の活用・コの字は継続。

②授業研・教材研修などの校内研修の充実

授業アンケート、従来の授業研究を継続する。さらに、教職員でグループワークや他の教員の授業を見に行くなど、交流する機会を設け、組織的な授業改善につなげる。教材づくりのヒントにすること、教材を練ることが目的であり、また他教科と関連付けた授業内容も考案していく。分かりやすい教材提示にICTを積極的に導入し、研修や環境整備も推進していく。ユニバーサルデザインを取り入れた授業を展開することで、多様な子どものつまずきに対応。ビデオ授業研では、子どもがどこで学び、どこでつまずいているかを共有し授業づくりに活かす。また、短期目標を設定し、チェックシートの活用により、可視化など、PDCAサイクルを推進している。

③学力向上に向けた取組みの継続と新しい取組み

自主勉ノートを活用し家庭学習の習慣化を目指す。家庭学習の手引きを年度当初の家庭訪問で配布。読書タイム、昼学習会、放課後学習会、自主活動(生徒会活動)と連携した授業づくりを行っていく。習熟度、TT、分割授業等、少人数指導による基礎基本の定着と子どものペースに寄り添った指導。学習サポーターとも連携し、子どものつまずきに対応。府のHPにある問題や、いばらき子スタディの活用。テスト前の授業がんばろう週間の取組みの一つとして、保護者には携帯メールで、テスト範囲、提出物、宿題のあるなしなどを配信し、家庭での声掛けの協力を得る。今後も子どもの姿から、子どもに実態に応じた取組みをすすめる。

④学力の各データ分析、考察、次年度の方針立て

確認テストの実施(経年比較)、定期考査と自主勉の相関など。学力向上の成果を数値で表し、検証する。

⑤低学力層の減少に向けた取組み

習熟度別学習の実施、ユニット制の導入(今年度は未実施)、新聞学習の計画的導入、補習学習の実施。全国学力・学習状況調査にて検証する。

⑥体力向上

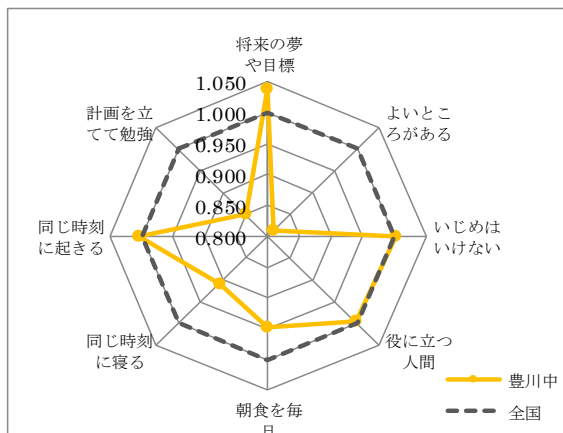
食育や体の発達など教科を通じて子どもの意識を高める。あいさつ運動やボランティア活動、部活動などの自主活動の活性化を図る。

⑦ゆめ力の育成

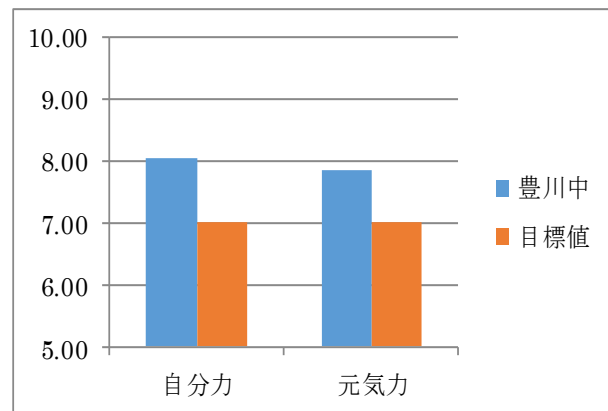
人権総合学習との連携。各教科でも集団づくりをすすめる。職業体験などを通じて自尊感情を高め、短・中・長期的な目標をもたせる取組み。最後まであきらめない進路決定までのプロセスの構築。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較レーダーチャートは8項目、目標値との比較棒グラフは、3項目とも実施した『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

将来の夢や目標の項目では、全国平均を上回る。他の多くは全国平均をやや下回る程度である。

目立つのは、「計画を立てて勉強」と「よいところがある」の2項目の度数の低さである。

将来や他者(社会)に対する気持ちはあるが、それを実現する計画性が弱いことが予想される。また、日々の生活において学習時間(授業等)の占める時間が多いため、全国学力調査の結果が示唆されるが、学習面が自尊心の伸び悩みに影響していると考えられる。

取組み

*「計画的を立てて勉強」の項目が低いことに対して

①自主勉強ノートのとrikumi

・自主勉強用のノートを配布し、生徒の取り組み(努力)に対するフィードバックを行ったり、学習方法を掲示したり、取り組んだページ数の多い者を表彰したりしている。

②テスト計画・学習実行表のとrikumi

・中間・期末テストの範囲や提出物等を、おおむね2週間前に配布し、かつ保護者にはメールの一斉送信でPDF版を送付している。その上で、学習計画をたて、学習の実行状況を表に記入し、時間の使い方や自身が学習に必要な時間などを可視化させる。

③昼・放課後・長期休業中の学習会

・月曜日と金曜日の昼休みに、ICT(いばらきっ子スタディ等)も活用した自主学習を行っている。

・中間・期末テスト前に放課後学習会を行っている。3年生は部活動の引退後に、教員が支援できる日にも開催している。

・長期休業中にも学習会を開催している。

また、教科によっては、重要事項に対して再テストを実施し、達成感をもたせつつ、定着を図っている。

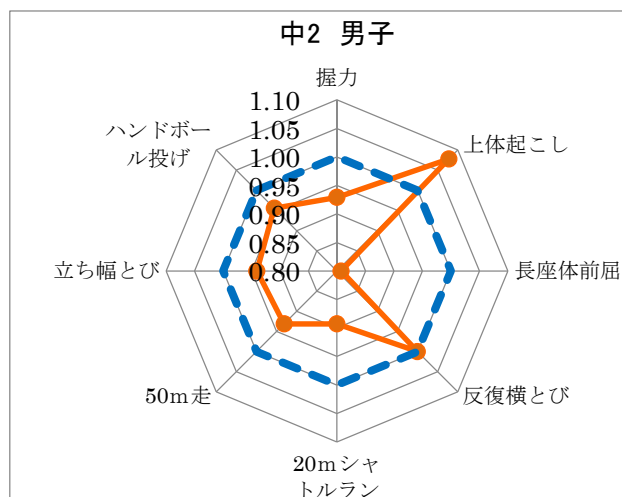
*「よいところがある」

・一人ひとりの学習を保障する(全員が学習に参加する)ことを目指し、佐藤学氏が提唱している「学びの共同体」をとりにれた授業づくりを中学校区で行っている。理解の高い生徒は説明することで学習の定着・深化を、苦手な生徒は他の生徒のケアを受け、理解の促進をねらっている。また、学習を通して関係づくりも目指している。

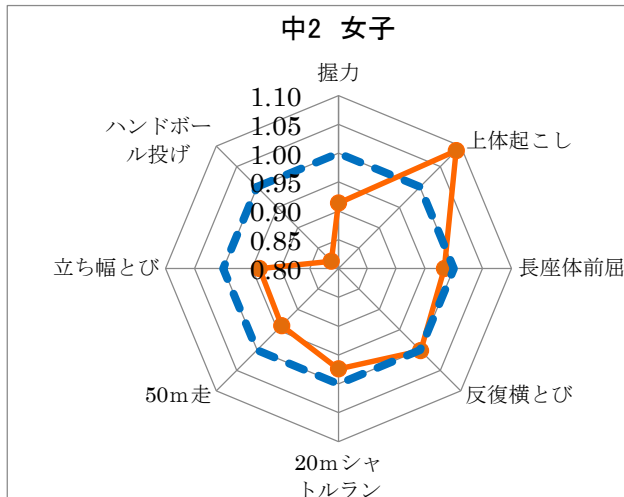
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

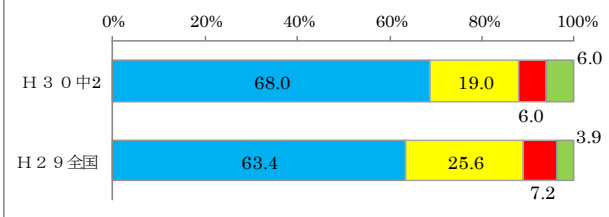
男子 (中2)



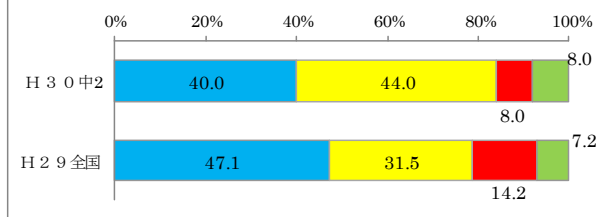
女子 (中2)



運動・スポーツが好きですか(中2男子)



運動・スポーツが好きですか(中2女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

全国平均と比べると、男子は上体起こしや反復横跳びで上回るまたは同程度の値であるが、それ以外は低い値となった。女子は上体起こしや反復横跳びで上回るまたは同程度の値であるが、それ以外は低い値となった。男子では長座体前屈が、女子はハンドボール投げで、値の低さが顕著に見られる。運動部や地域スポーツクラブへの所属は男子で87%、女子で72%であり、全校平均と比べると上回っている。アンケートの結果では運動が『好き』『やや好き』と答える生徒が男子は87%、女子は84%と全国平均とさほど変わらない値を示している。男女とも運動が好きな生徒が多い。

取組み

今年度も意欲的に取り組めるよう、2、3年生に関しては、新体力テスト実施前に昨年度の個人データを見せた。昨年度の記録を上回れるよう、頑張る生徒の様子も見られた。運動部に所属する生徒は多いが、種目によって苦手なものがあることがわかった。男子では柔軟性、女子では巧緻性、筋パワーを高める必要がある。保健体育の授業では補強運動を継続して行っているが、結果を踏まえて、運動内容を変える場面も必要と考えている。

- ① 生徒が主体的に学ぶことができるよう、引き続き授業づくりに取り組む。
- ② 体を動かすことの楽しさが味わえるよう、活動内容や方法を工夫する。
- ③ 技のポイントをわかりやすく伝え、意欲が低くならないよう努める。
- ④ 補強運動の内容を、主運動の内容によって工夫する。